



2025年 1月30日 第2595回例会
1月第4例会

RI会長テーマ: The Magic of Rotary
「ロータリーのマジック」

本年度会長テーマ
「始めよう 誰かのために」

「職業奉仕月間」

◆ 会長時間 ◆

前橋会長



2月9日(日) 14時からリーガロイヤルホテルでインターシティミーティングが開催されます。インターシティミーティングは、近隣都市のクラブが集まって開かれるロータリーの会合で、日本語訳では都市連合会とも呼ばれているようですが、やはりインターシティミーティングまたはIMと呼ぶ方が一般的だと思います。第2710地区は12グループありますが、インターシティミーティングは10か所で開催されます。グループ合同で開催するのは、当クラブが所属するグループ6と7、そしてグループ10と11だけで、あとはグループ単独で開催されています。地区大会は12グループ、3,100名の会員を対象していますが、グループ6、7のインターシティミーティングは950名が対象となります。二つのグループで地区の会員の1/3近い人数ですから、会員数の多いグループであることが分かります。地区大会はガバナーが主宰者となり、ガバナーを送り出したクラブがホストクラブとなりますが、インターシティミーティングはガバナー補佐の主宰となり、ガバナー補佐が在籍するクラブがホストクラブとなって開催します。なのでインターシティミーティングでは、ガバナーは来賓扱いとなるわけです。

この会合の目的は、会員相互の親睦と知識を広

めることで、会員にロータリー情報を伝え、奉仕の理念を学ぶことにあります。このことから近年入会の方がロータリーを学ぶのに打って付けとも言えます。今年は「今だから平和を」がテーマで、俳優で国連開発計画親善大使の紺野 美沙子さんが講演とともに原爆で亡くなった広島一中、今の国泰寺中学の生徒の父母の手記を集めた「星はみている」を朗読されます。今年被爆80年を迎える年でもあることから講演や朗読を通じて平和に向けた奉仕の在り方を考える機会となるかもしれません。

インターシティミーティングは全員登録となっています。参加の可否に関わらず登録料12,000円が徴収されます。ご都合がつかない場合は仕方ありませんが、日曜の午後にちょっと出掛けていただいて、紺野 美沙子さんの話を聴き、懇親会で食事を取り、楽しく過ごしていただきたいと思います。そして参加するとともにメイクアップが付いてくるお得なセットになっていますのでよろしくお願ひします。



本日は100万ドルの食事例会です

● 委員会報告

※ プログラム・出席委員会

出席報告 大谷委員長

本日(1月30日・木曜日)
会員数 91名 出席者 72名
欠席者 19名 ご来客 0名
ご来賓 0名 ゲスト 0名
計 72名
4週前の例会2024年12月19日・木曜日
出席率 100%



※ 山縣次年度幹事

次年度委員会配属表をボックスに入れております。

● 会員記念日



奥様お誕生日おめでとうございます。

(7名)

川西君	文江夫人
隅田君	英美夫人
諏訪(登)君	博子夫人
平原君	佳代夫人
中村(光)君	めぐみ夫人
石山君	園子夫人
前橋君	宏子夫人

👑 12月決算月おめでとうございます。

(13名)

大谷君	税理士法人児玉会計
田島君	広島アルミニウム工業㈱
大地君	ANAクラウンプラザホテル広島
田川君	田川司法書士事務所
福田君	(医・社)メリィホスピタル
金本君	金本公認会計士事務所
大本君	大本・三宝・桑原法律事務所
木村君	木村公認会計士・税理士事務所
香川(浩)君	㈱ヒロウエル
大植君	大植法律事務所
片山君	㈱コマップス
崔君	インターナショナルエアアカデミー広島校
長尾君	㈱ウェブリック



● スマイルボックス

SAA 熊本君



👤 長谷川(行)君、中村(哲)君、斉藤君、笹野君、上田君、加藤君、松岡(輝)君

本日は「おからのお菓子の日」、「味噌の日」、「EPAの日」と「サワーの日」だそうです。

4つの今日の日に共通するのは食です。食事は健康を維持・増進し、生活リズムを整えるために欠かせません。また食習慣や食文化を通じて、心の豊かさや満足感を得たり、人間関係を築いたりすることもできます。

ということで、食を通じて社会に貢献されている皆様にスマイルにご招待いたします。

👤 穴戸君、中岡君

先週木曜日の中国新聞ジョイスポ欄に穴戸君が掲載されていました。

12月27日のオヨヨクラブ主催ボーリング大会で見事優勝されました。スコアは4ゲームで893点。おめでとうございます。

あわせて、オヨヨクラブ会長の中岡君もご招待いたします。

● スマンボックス

👤 プログラム出席委員会 大谷委員長、柴田副委員長

先週の卓話講師の紹介で委員会内の連携がとれてなく、講師の隅田君の紹介がとても聞き苦しいものになりました。卓話者として、しっかりと準備をされて例会に臨まれた隅田君にとっても申し訳なく反省しております。

当日欠席された大谷委員長と各々トリプルで出宝します。

👤 梶本君

本日11:00から開催の臨時委員会を例会後の開催と勘違いして15分も遅れてしまいました。理事の皆様、申し訳ございません。出宝します。



「ロータリーにおける 職業奉仕とは」

職業奉仕委員会 委員長
平原 洋一郎 君

ロータリーの歴史は1905年にポール・ハリスがシカゴロータリークラブを設立したときに始まりました。その当時のロータリークラブは、会員同士が有利な条件でお互いに取引をして利益を上げる親睦団体でした。ですから、その頃のロータリーには奉仕という概念はありませんでした。そんな、ただの親睦団体に、初めて奉仕という概念が生まれたのは、クラブが設立されて3年後の1908年のことです。この年、マーケティングの専門家であったアーサー・フレデリック・シェルドンが、シカゴロータリークラブに入会しました。シェルドンは、ロータリアンが親睦の中で培った善意の心を、自分の職業を通じて世の中に広めることこそ、ロータリアンが歩むべき道であると説きました。それまで親睦はクラブ活動の目的だったわけですが、そうではなく、親睦は善意の心を職業を通じて普及させるエネルギーを養うための手段であると考えました。

善意の心を職業を通じて普及させるとはどういうことでしょうか。

シェルドンはマーケティングの専門家でしたので、彼の持ち込んだ奉仕概念は、おのずと、モノを売る、という商行為を通して世の中に貢献するというものになったことは自然なことでした。シェルドンは、販売行為を正しく行えば、その結果、世の中は良くなるのだと説きました。人間は自分が一番大切な生き物で、自分の利益を優先してしまう傾向がありますが、もし商人が、他人を苦しめてでも、なりふり構わず自分の利益だけを追求すれば、世の中は乱れきってしまいます。そこでシェルドンは、自分の利益と同時に他人の利益も考えて、両者のバランスを取る努力をしながら商売を行うことが重要だと提唱しました。これをロータリーでは「利己と利他の調和」と言った

りします。利己と利他のバランスを重視し、正しく商売を行えば、実はそれが一番儲かる道であり、同時に、自分の属する業界も、社会も、より良いものにできると彼は訴えました。ロータリークラブが自分たちだけ儲かる仲良しクラブであってはならないと考えていたポール・ハリスは、シェルドンの考えに大いに賛同し、この概念の普及に力を注ぎ、ロータリアンは自分の職業を通じて世の中に貢献する人々だという基本的な考え方が定着していきました。当時はまだ「職業奉仕」という言葉はありませんでしたが、シェルドンがロータリーにもたらした奉仕概念は、後に正式に「職業奉仕」と定義されました。そのためシェルドンは「職業奉仕の父」と呼ばれています。以上のように、ロータリーの奉仕は職業奉仕から始まり、職業奉仕は初期ロータリーにおいてはロータリーで唯一の奉仕概念で、他の団体には例を見ないロータリー独特の奉仕概念として、非常に重要視されました。今でも、職業奉仕はロータリーで一番大切な奉仕であると言われるのはこのためです。

しかし皆さんご存じのように、今のロータリーでは職業奉仕は重要視されてはいますが、唯一の奉仕ではなく、社会奉仕や国際奉仕など、その他の奉仕概念も存在しています。いつからそうなったのでしょうか。

シェルドンが1908年にシカゴロータリークラブに入会してロータリーにもたらした職業奉仕の概念は、その後、ロータリークラブの目的から親睦を外して最初の綱領を制定したポール・ハリスが普及に努めた結果、ロータリーの標準的な奉仕として全米のロータリークラブに広まっていきました。これと同時に、全米のロータリークラブで身体障害児への支援が活発に行われるようになり、ロータリーにおける社会奉仕的活動が始まっていきました。つまり、それまで職業奉仕だけだったロータリークラブの活動に、社会奉仕的な活動が加わったのです。ロータリークラブによる職業奉仕以外の奉仕活動は、まず身体障害児支援に始まり、さらには、大型災害救援金、第一次大戦における戦争避難民救済活動など、国際的な社会奉仕活動にも及びました。こうなると、それまでロータリークラブは職業奉仕をする団体であると考えてきた人々と、いや、ロータリークラブは職業奉

仕だけでなく、社会奉仕的活動も積極的に行うべきだと考える人々との間に摩擦が生じるのは明らかで、実際、ロータリーはこの激しい摩擦の結果、分裂の危機に見舞われました。この分裂を回避するには、ロータリークラブは何をする団体であるかを明確にする必要がありました。そこでまず、1923年の国際大会で、1923年の第34号決議、通称「決議23-34 (23の34)」が採択され、ロータリークラブは社会奉仕をしてもいいことが正式に認められました。さらに、4年後の1927年には、「四大奉仕」が採択され、職業奉仕に加えて、それまで活発化していた社会奉仕、国際奉仕もロータリークラブの正式な奉仕活動として認められました。そして現在では、青少年奉仕が加わって「五大奉仕」がロータリーの正式な奉仕部門となっています。このように、ロータリーの奉仕は、まず、シェルドンがもたらした職業奉仕から始まり、その後、ロータリーは分裂の危機を乗り越えて、社会奉仕、国際奉仕など、その他の奉仕も認められるようになりました。

最近の傾向として、国際ロータリーは、ポリオプラスを始めとする大規模な奉仕活動に重点を置いていますので、社会奉仕が最も重要な奉仕活動だという印象を持たれる方が多いのではないかと思います。実際、現在の国際ロータリーは、シェルドンがもたらした職業奉仕概念を広くロータリークラブに普及させることにはあまり力を入れていないようです。いろいろな見方があるとは思いますが、現在の国際ロータリーは、初期ロータリーで確立した職業奉仕概念を、もっと簡単に伝えていくようです。My Rotaryによると「職業奉仕は、すべてのロータリアンが倫理と高潔さをもって仕事にあたり、職業の知識やスキルを社会のニーズ解決のために進んで役立てること」とあります。要するに、正しく職業を行うことで社会に貢献しよう、ということだけ伝えていきます。しかし、これはとても表面的で、いったい何を意味しているのか、これだけではよくわかりません。それを知るためには、やはり、今日お伝えしたような、当初のシェルドンの職業奉仕概念に立ち戻るしかないわけです。

ロータリーでは、奉仕概念を理解するだけでなく実践することが大切です。職業奉仕概念につい

ては、ここまでお伝えした内容で理解いただけるとと思います。それでは、職業奉仕を実践するためにはどうすればいいでしょうか。

国際ロータリーが作成した「職業奉仕の手引き」によると、まず「四つのテスト」と「ロータリアンの行動規範」を指針とすべきです。この2つは、職業奉仕の指針と考えてもいいと思います。これを職場の目に付くところに掲げて、常に自らを省みる態度が職業奉仕の第一歩です。さらに、ロータリアンは、自分の専門的スキルを個人あるいは団体による奉仕活動に活かすと同時に、職場においても実践する義務があると述べています。職場で高い倫理水準を維持するためには、誠意と責任を重視し、公平さを保ち、相手を尊重する重要性について、従業員研修などで普及に努めることを奨励しています。顧客、業者、仕事関係者と接する際は、高い倫理基準を持ち、思いやりと熟慮をもって行動することを求めています。

これ以外にも、様々な専門分野ごとに作られた「ロータリアン行動グループ」に参加する、ビジネスネットワークの拡張と職業スキルの向上を目的とした地域イベントを開催する、地域の若年層を対象にキャリア相談会を開催する、職業研修チームに参加して実地参加を通じて職業奉仕を行うなど、様々な職業奉仕の機会があります。

My Rotaryや国際ロータリーの作成した手引きなどを見ると、本当にたくさんの職業奉仕の機会があることに驚きます。こうした情報は、クラブが会員に伝えてくれるものと思いますが、皆さん一人ひとりも、職業奉仕にご興味をもっただき、情報を知り、実践することが大切です。これを機会に、職業奉仕を理解され、今後はさらに実践されることをお願いいたします。



「私の職業奉仕とは」

大谷 博昭君

「仕事」とは何かと問われると人それぞれに様々な思考や定義があると考えます。

私は「困っている方、悩んでいる方を救う、助け

る」こととして活動しています。

助ける救うことは、ものを購入するの相談で来られることも同じです。悩んだり困惑したり、その解決後の世界をより良くしたいために、お客さんは来られますので、その手助けが「助ける救う」という考えにつながります。

自分中心な対応で仕事をするのではなく、相手（お客、仕事仲間）に対し、そのような姿勢で接することが職業奉仕の心にも通じると考えております。



◆グループ討議内容

- 発表された内容を聞いたうえで、どのような感想を持ったか
- 職業奉仕についてどのような考えをもっているか、実践していることがあるか



1班

- 簡潔で分かりやすかった
- よく見ると当たり前のことだが、日々仕事に活かしていきたい
- 『四つのテスト』は全てにおいて通じる
- お客様の夢の実現のために努力することが結局は自分を救うことになる
- 人のために役立つことがロータリーの精神に通じる

2班

- 利己と利他のバランスと『四つのテスト』は

人によって完結される

- 職業奉仕の理念がロータリー活動により広がっていけば良い
- 職業奉仕はロータリークラブの根幹である
- 諸外国と比べて、日本人にはやさしさや基本的なマナーの良さ、相手をリスペクトする心があり、職業奉仕が当たり前できている
- 『四つのテスト』を社内で唱和し、実践している
- 経営理念パーパス〔存在意義 企業価値〕を高め、世の中に浸透できる形をつくる



3班

- 「昔ながらの風習・伝統」を大切にする
- クライアント企業を支え、発展につながるように常に心掛けている
- 伝統的な風習を通して、人と人との絆を結び続ける
- 自社の活動で顧客から“ありがとう”をもらえるよう努力している
- 『四つのテスト』『ロータリアンの行動規範』を意識している



●卓話予告

日時	テーマ
2/13(木)	「カープよもやま話と、私の健康経営ビジネスについて」 （株）HAKI pro 代表取締役 安部 友裕 様



広島西RC

検索



例会日・木曜日 12:30~13:30

例会場・ANAクラウンプラザホテル広島

会長 前橋 寛

幹事 鈴木 義尚

事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78

リーガロイヤルホテル広島13F

TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870

E-mail: hwrc@godorc.gr.jp

作成・会報雑誌・広報委員会